



安行小だより

安行小学校 5月号

令和5年5月1日

目指す学校像

よさを認め、学び合い高め合い、やる気と笑顔あふれる学校（個の伸長 公の育成）

～伝統と地域と共に励みて進む安行小150年～

力をあわす楽しさよ

校長 春川 嘉孝



西門に看板を設置していただきました。登下校時に子供たちがこの門を通ります。両サイドに開いた門の真ん中を通っていきます。毎日毎日この看板を目にしながらか「150年」の歴史を感じてほしいと思います。登校時、何人かのお子さんに尋ねてみました。「この看板どう？150年ってすごいよね？」

すると、「150年ってどのくらい昔なの？」「なんだかとっても大きな学校のような気がする」といった声が返ってきました。子供たちからみた「150年前」の姿を、折に触れ意識させながら、安行小の150年を実感させていきたいと思ひます。

さて、表題の「力をあわす楽しさよ」が校歌3番の歌詞の一文です。力を合わせることで、安行小を豊かに、誇りに思えるようにしていこうと続ていきます。力を合わせる「開校150周年運動会」を27日（土）に予定しています。子供たちの健康や保護者の皆様の安全を第一にしながらも、各学年での競技を実施します。自分自身の活躍も、クラスや色としての集団意識も、まさに「力を合わせて」取り組む学校行事となります。

（※2日（火）は航空写真、バルーンリリースを予定しています。予備日は8日。当日は、子供たちが登校すると、いつもの校庭に絵が描かれ、一見何に見えるかわからない図面も、一人一人の子供たちが決められた位置に付き、撮影されたとき、きつとわくわくするようなデザインだったと感ずるでしょう。そして、150年をお祝する「バルーン」。天高く、大空に安行小の思いが各地に届くことを期待しています。）

先日の土曜日、いつものように朝早く目覚め、テレビをつけると「藤前干潟」の取組が放映されていました。この干潟には、毎年2万羽以上の渡り鳥が飛来し、旅の途中でのえさ場として「生き物たちの楽園」と言われているそうです。この干潟を守るために、市民の様々な活動が紹介されていました。「ゴミを減らすこと」「鳥たちの楽園としてどのように干潟を守るか」そこには、鳥を守るということだけではなく、人の命も守る、鳥と人が共生する、生き物はつながっていることを思いながら、一人一人が力を合わせている姿でした。また、干潟の土を分析してみると、目に見える「ゴミ」だけではなく「ビニール袋の切れ端」や「プラスチックの破片（マイクロプラスチック）」がたくさん出てきたそうです。プラスチックゴミ削減の取組は、身近なところにもあります。それでも、こういったゴミは集まってしまふのが現状です。自然には分解されないもの、分解されるまでに何十年、何百年かかるといわれているもの。一人の力は小さくても力を合わせることで、大きな力になり、それが大きな喜びになる。

自然豊かな安行小で、家庭、地域と共に、心豊かで、たくましい子供たちの育成に引き続きご理解・ご協力をお願いいたします。



アスファルトから植物が。自然のたくましさ。